

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 合馬 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立実実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均をやや上回っている。「読むこと」「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」は全国平均をやや下回っている。
	よくできた問題	物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題や、人物像や物語の全体像を具体的に想像し、考える問題の正答率は全国平均を上回っている。
	努力が必要な問題	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題の正答率は、全国平均を下回っている。
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均と同程度であるが、若干下回っている。「数と計算」「データの活用」の領域は若干上回っているが、「図形」「変化と関係」の領域は若干下回っている。
	よくできた問題	直方体の見取り図の理解を確かめる問題や、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取り式に表す問題の正答率は全国平均を上回った。
	努力が必要な問題	円柱の直系の長さ、円周の長さ、円周率の関係への理解を確かめる問題や、速さの意味や折れ線グラフを読み取る問題では、全国平均を下回った。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
・「自分にはよいところがある」の問いに対する肯定的な回答は全国平均を下回っている。その一方で、「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい（地域参画意識の醸成）」に対する児童の肯定的な回答は全国平均を上回っている。自分の未来に展望をもち、よりよい社会や人間関係の構築を願い、役に立ちたいという気持ちは高まってきている。各教科の学習や学校行事等を通して、自己肯定感を高める取組を進め、家庭・地域にも協力を仰ぎながら、学校・家庭・地域が一枚岩となって教育活動を展開していく必要がある。
・「携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴」をしている時間が全国平均より長い。ICT機器を勉強のために使っている時間は全国平均より少ない。活用の仕方、約束等を啓発・指導していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

◎朝学習や授業において、繰り返し学習やAIドリル等を活用して、基礎基本の定着を図る。学習の定着の個人差を解消するため、T.T.の充実や個別の指導を計画的に行う。
◎各学級で話し合い活動を授業中に位置付け、児童が主体的に学びあえる授業づくりについて研究・実践を積み重ねる。また、情報教育を日々の授業に位置付け、推進を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎「10分×学年＋10分」を家庭学習の目安として毎日宿題を出すとともに、学年に応じて「自主学習ノート」を活用し、予習や復習にとりくむよう家庭と連携して指導を行う。
◎スマートフォン、SNSや動画視聴の適切な付き合い方、インターネットトラブルに関する啓発を行い、家庭との連携を図る。